

タイトル：日本の生産性は回復したのか？－『企業活動基本調査』に基づく実証分析－

所属：一橋大学大学経済研究所経済制度センター非常勤研究員

報告者：金榮懋

日本の生産性は回復したのか？

－『企業活動基本調査』に基づく実証分析－

権 赫旭、金 榮懋、深尾 京司

要旨

本稿では、製造業と非製造業(主に商業・事業所サービス業)について、産業全体をほぼカバーする企業レベルのデータを利用して、2000年以降に日本経済の全要素生産性上昇率は回復したこととその回復には非製造業の寄与が大きかったことを確認した。さらに、全要素生産性上昇率を、内部効果、再配分効果、参入・退出効果、等に分解することにより、1990年代に日本の生産性上昇が回復した原因を探った。分析の結果、製造業・非製造業いずれにおいても、生産性上昇の源泉の中心は内部効果(事業所・企業内の生産性向上)であることが分かった。内部効果がなぜ上昇したかについて明確に答えるために企業の全要素生産性上昇率を研究開発投資、人的資本、所有関係、輸出といった企業特性変数に回帰した。回帰分析から、2000年以降の日本経済の生産性上昇の原因が輸出の増加、市場競争圧力の上昇、企業間ネットワーク活用にあることを確かめた。

JEL Classification Number: D24, O40, O53